

# コミュニケーションなリーディングのテスト

大森 博

(東京都練馬区立中村中学校)

## 1. はじめに

私たちは授業の中でリーディング活動を行います。その活動で身につけさせたい力とはどのような力なのでしょうか。リーディング活動ですので「読み取る力」がその中心になります。では、何を読み取る力なのか。主だったものを挙げると、

- ① 特定の情報を正確に読み取る力
- ② 文章全体の概要を読み取る力
- ③ 文脈を読み取る力

ではないでしょうか。

これらの力が身につけているのかを確認するにはどのようなテストが望ましいか、いくつかの例を挙げて考えてみましょう。

## 2. 実際に体験しそうな場面設定

私たちは既習の語彙や文法事項を踏まえ、テストの内容を考えます。しかし、授業で使用した文をリーディングの問題に使った場合、果たして本当に読み取る力を測ることができるのか疑問に思います。問題文は生徒が授業で目にしたことのない文が望ましいでしょう。

また、実際の生活場面の中で学習した内容を用いることができるかどうかを測ることで学習の定着度をみるのが可能です。ですから、テスト問題では日常生活の中で実際に体験しそうなコミュニケーション場面を設定するのがよいでしょう。つまり、コミュニケーションなリーディングのテストが必要で

## 3. テスト作成前に決めておくこと

テストを作成する前に、そのテストのスペック(どのような構成にするかという設計図)を決めることが大切です。リーディング問題の場合、先に挙げた①②③などの力の中から、テストしたい力を決めます。

リーディング問題では語彙や文法、英作文との複合問題をよく見かけます。しかし、テスト後に生徒へフィードバックすることを考えると、問題ごとのテストポイントが1つにすることが望ましいでしょう。

テストポイントが決まったら、どのような場面や状況を設定するかを決めます。たとえば、手紙、ホームページ、伝言板、チラシ、スピーチ原稿、メニューなど、できるだけ日常生活で目にするものから選びます。

問題ごとの語数はあまり多くないほうがよいでしょう。生徒への負担を減らすためにも語数には気をつけたいものです。

## 4. リーディングテスト例

ここからは具体的な問題を挙げて考えましょう。

### (ア) 概要を読み取る力を測るテスト

この問題は、文章の概要・要点をつかもうとする心理が自然に働く場面や、つかまなければならない場面を設定します。掲示板やポスター、案内、広告など、日常生活で目にするもので書かれている情報から概要・要点を自然に読み取っていくものが適しています。例を挙げてみましょう。

【例1】

あなたはアメリカに留学中です。町の情報誌を読んでいたら、次のような記事が目にとまりました。何について書かれた記事でしょうか、下から1つ選び、番号で答えなさい。

Big news!  
Mao-Shin-Ci is coming to your town at last!  
He is a world famous Chinese cook.  
He has many fans in America.  
He will stay in your town for a week.  
You can eat his great Chinese food at the Plaza Hotel on the evening of October 9th and 10th. It is only \$35!

- ①中国旅行の案内 ②中華料理の特別ディナーの案内  
③中国語講座の案内 ④中華料理の作り方教室の案内  
(平成21年度東京都中英研「コミュニケーションテスト」より)

この問題は、アメリカ留学中に目にした町の情報誌という設定です。慣れない土地での生活では、その町の情報誌は様々な情報を知る上で欠かせないものではないでしょうか。留学する生徒はほとんどいませんが、留学という見知らぬ土地での生活をイメージし、興味を引きそうな場面を設定することで、自然と文全体を読み取ろうとする状況を作っています。

概要把握問題で注意することは、1つの単語や文から答えを導かないようにすることです。複数の語や文を総合して初めて答えがわかる仕組みが必要です。上の例では、Chinese cook という語から中国や中華料理というイメージがわきます。しかし You can eat ... の文を読み取らないと「ディナーの案内」という答えに辿り着きません。

また、答えの選択肢を作る場合は、問題の中に使われている語をもとに作るのがよいでしょう。一見どの選択肢も答えのように見えますが、最後まで読まなければ正答を選べないからです。選択肢の語数を同程度にするなど、答えを容易に選べない仕組みも必要です。

(イ) 文脈を読み取る力を測るテスト

この問題は、文章の流れを読み取る必要性のある場面を設定します。まとまった文の中に1文を入れなければならない場面や別々の英文を自然な流れになるように並べなおす必要がある場面などです。スピーチの原稿や日記、手紙など、書き手の意思や気持ちなどを反映したものが適しています。ここでは、1文を入れるタイプの例を挙げてみます。

【例2】

ケン は、夏休みにオーストラリアの中学生 Jack の家にホームステイしました。日本に戻ってから Jack にお礼の手紙を書いています。ほぼ書き終えたとき、どうしても次の1文を加えたくまりました。どこに加えるとよいか、最も適切な場所を選びなさい。

加える文：Those days made me happy.

Hi Jack,  
Last Wednesday, I came to Japan. It was very hot here then.

① I remember the days with you in Australia. You were very kind to me. Do you remember the first day?

② I could not speak well. But your joke made me happy. Soon we were playing and talking a lot together.

③ I hope I will visit you in the future again. And I hope you will come to Japan and visit me, too. I will take you to many beautiful places here.

④ Please say hello to your family and write me back soon.

Your friend, Ken

(平成21年度東京都中英研「コミュニケーションテスト」より)

この問題は、ホームステイ先の Jack に対するお礼の手紙という設定です。ALT などお世話になった人へ英文でお礼を書くという活動は少なくありません。お礼を書く場面では、書いたあとにどうしても1文を加えたいという状況も起こりやすいのではないかと考えて、この場面を設定しています。

また、加える文にも加えるだけの価値が必要になります。Those days made me happy. という文にすることで相手への感謝のメッセージが込められるので、文を加える意味も十分にあります。入れる場所の前後にある文や段落のつながりも意図的に考える必要があります。文がこの場所にしか入れられない仕組みにするためにも熟慮が必要です。

5. おわりに

以上のように、リーディングテストをコミュニケーションにするには、どのような場面を設定するのかというアイデアが必要不可欠です。普段から周囲に目を配り、題材になりそうなものを見つける努力を怠らないようにしたいものです。

【参考】 東京都中学校英語教育研究会「コミュニケーションテスト」。